

あなたのまちの『GIGA スクール構想』どうなっていますか？！

子どものネットリスク教育研究会専門委員会(以下リスク研)主催学習会「GIGA スクール構想の現実と課題」

1月に開催された THInet 認定講習会を受講した方から「GIGA スクール構想の端末が今月導入される予定ですので、色々教えてほしい」との連絡がありました。ネットリスク啓発をする上で、GIGA スクール構想の中身を知り、現場の実態を知ることには非常に大切だと考えから急遽リスク研と連携し、リスク研主催で学習会を開催しました。開催間際の呼びかけにもかかわらず30名以上の参加があり、関心の高さがうかがわれました。

学習会の概要

東北地区のある中学校現場の様子と課題について話題提供され、参加者らの交流・質疑応答が行われました。

自治体の方針により進められるため、都道府県で進捗状況に差があるようですが、規制(セキュリティポリシー)などの設定に困惑する自治体、忙殺される教育現場の現状でした。

子どもの学習意欲が高まったり、発表に積極的でなかった生徒が発表するようになったりなどのメリットとともに、ICTを進めることが目的となってしまう傾向も存在するとのことでした。本来あるべき生徒と向き合う時間・機会が阻害される可能性や健康被害についての対応、経済的に苦しい家庭への配慮の必要性も指摘されました。

まずはICT支援員、GIGAスクールサポーター制度をしっかりと利用できるようにし、少しでも現場の忙しさを軽減するようにすることが、子ども達と向き合う時間の確保になるのでしょうか？
〔文責/矢野〕

参加者の感想

*現場の苦勞が我々でもわかる感じで、話題提供者のGIGAスクール端末の対応はスペシャルです。やらざる負えない状況なんですけど、今後対応すべき課題があったと思います。せっかくのGoogleというプラットフォームがあるのだからG-SUITEなどで一括管理できるように教育委員会が動くべきだと感じました。多くの自治体が現場の声、運用を大事にしていらないのだと感じました。GIGAスクールが今後のためによくなっていくように望みます。それからやはり健康被害は間違いなくあるので、啓発は重要だと思いました。

〔研修会、プログラミング教育を行っている市民活動家、会社員〕

*今回のお話の中で、「ロイロノート」と「クラスルーム」が挙げられていましたが、私自身高校と大学でこの2つのツールを使用した経験があります。これらのツールのメリットは教員から子どもに向けて一斉に発信することができること、子どもからの発信も速やかに受けることができることだと思っています。

しかしその反面、教師の目の行き届かないところで、授業に関係ないことをできてしまうということも事実としてあります(実際に自分がやっちゃってしまいました笑)。ツールのより効果的な使い方を見出すことがこれからの課題ではありますが、それ以前に配布や保管についての問題があることを知ることができたので、現実的な話を聞けてとても勉強になりました。

〔教員をめざしている学生〕



学習会の内容詳細と見えてきた課題



- (1)『子どもにとってどうか!』という子どもを中心とした議論が欠ける可能性がある。
- (2)現場の教職員が忙殺される。(地方ではが支援員が都内企業で実質的な利用ができないこともある)
PCが配置されるが、開梱の作業、クラス分け、初期設定や生徒一人ずつのアカウント入力、暗証番号を忘れてしまった生徒のPCの初期化と再設定 等⇒『ICT 支援員制度』の利用が不可欠である。
(※新年度になれば、クラス替えがあるとアカウントは卒業まで持ち越すので、その入れ替えもある)
- (3)教師間の技能格差／得意な教師と不得意の教師がいる。⇒生徒への教育格差につながる可能性。
- (4)アクセスの不安定さ(センター集約方式)⇒「学校個別接続」がベターではないか?
- (5)PC持ち帰り OK では、家庭の Wifi 環境がある家庭に限定されてしまう。⇒教育格差につながってしまう。
- (6)PCを壊した時の損害賠償はだれがするのかも課題／経済的に苦しい家庭への配慮が必要。
(※『スクールキーパー』など保険の利用をしている自治体もあるようです)
- (7)小学校は技術的な専門科職員もいなく、児童も端末に慣れていないから余計に大変ではないか?

〔文責/矢野〕

編集長交代のご挨拶と 寄稿のお願い

2018年4月に第1号を発刊して、3年が経とうとしています。「燈火」というタイトルは、養成協共同代表であり宮城県仙台市の小児科医である田澤雄作先生から頂いた言葉です。私たちの活動の一つひとつは小さな燈火かもしれませんが、みんなが灯せば、松明の輝きとなります。私が行ってきた燈火の灯りは矢野新編集長が引き継いでくれました。
お世話になりました。 本間

2021年2月より新編集長を仰せつかりました矢野さと子です。THInetの教材開発委員として、また子どものネットリスク教育研究会の乳幼児部門でも活動しております。
不慣れではございますが、副編集長の伊藤理恵さんともども、どうぞよろしくお願いいたします。

紙面では、情報交換などをおし、皆さまのお役にたてる、また交流できる場となりますように努めてまいります。つきましては、皆さまの活動の様子(『活動への思い』『現場で工夫されていること』や予定されている企画の『告知』、終了した企画の『報告』等)や、参加された学習会等で広く『共有したい事柄』等がございましたら、次の要領で是非寄稿いただきたく、ご協力をお願いいたします。

原稿の締め切り：毎月10日(25日発行で、編集は10日頃開始のため)

文字数：200～500文字程度。

ただし、寄稿の旨は前月10日までにお申し出ください。なお、寄稿数が多数に及ぶ場合は、掲載日の変更がございますので、予めご了承ください。

その他紙面につきましてもご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

連絡先：養成協 HP よりメール (燈火編集長 矢野宛にお願いします。)

